

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業
(免疫アレルギー疾患等政策研究事業(移植医療基盤整備研究分野))
平成30年度 分担研究報告書

『非血縁者間末梢血幹細胞移植における末梢血幹細胞の効率的提供と
至適な利用率増加に繋がる実践的支援体制の整備』

分担課題名：非血縁者間末梢血幹細胞移植における慢性GVHDの対策と治療体制の整備

研究分担者 豊嶋 崇徳
北海道大学大学院医学研究科医学専攻内科学講座血液内科学分野・教授

研究要旨

北海道の地域性に配慮した効率の良いECP設置を検討する基盤データを得るため、2015年～2017年に他院から紹介され北海道大学病院で同種造血幹細胞移植を受けた症例において、紹介病院の地域と移植後のフォローアップ先の病院の地域を調査した。札幌圏外から紹介された症例の割合は40.8%であったが、退院後のフォローアップ先としては札幌(当院)が多くを占めていた。一方、経過と共に地元の病院にフォローアップ先が移行している傾向も認められた。本調査では、地元の病院でフォロー中の症例が、慢性GVHDを発症しECPを要すると判断された場合、当院への転院加療で対応可能と考えられ、札幌圏外にECPを設置する意義は確認されなかったが、今後も移植後症例におけるフォローアップ先の推移を検証していく必要がある。

A. 研究目的

北海道の地域性に配慮した効率の良いECP設置を検討するための基盤となるデータを得る。

B. 研究方法

2015年～2017年に、他院から紹介され当院にて同種造血幹細胞移植を受けた症例における、紹介病院の地域と、移植後のフォローアップ先の病院の地域を調査する。

<倫理面への配慮>

本研究は性質上倫理面への配慮は不要である。

C. 研究結果

2015年～2017年に他院から紹介され当院にて同種造血幹細胞移植を受けた症例数、および紹介病院を地域別の割合は下記の通りであった。

上記期間における退院後のフォローアップ地域を調査したところ、下記の通りだった。

上記期間において、札幌圏外の病院から紹介された症例が退院後のフォロー先において地元の病院が選択された割合は、いずれも50%であった。

札幌圏外の病院から紹介され、2015年に移植を受けた症例における、退院後のフォローアップ先の地域の変化は、下記の通りであった。

D. 考察

他院から紹介され当院で同種移植が施行された症例のうち、札幌圏外から紹介された症例の割合は40.8%であり、全体の半数弱を占めていた。

退院後のフォローアップ先として地元の病院が選択された割合は19.2%であり、多くは札幌(当院)が選択されていた。一方で、時間経過と共に地元

の病院に移行している傾向も認められ、地元の病院でフォローされる同種移植症例は、今後も増加傾向を示す可能性が考えられた。

地元の病院でフォロー中の症例が、慢性GVHDを発症しECPを要すると判断された場合、慢性GVHDの発症率を考慮すると、現時点では当院への転院加療で対応可能な症例数と考えられた。

E. 結論

札幌圏外にECPを設置する意義は、本調査では確認されなかったが、今後も移植後症例におけるフォローアップ先の推移を検証していく必要がある。

F. 研究発表

【1】論文発表

Okamoto S, Teshima T et al. Extracorporeal photopheresis with TC-V in Japanese patients with steroid-resistant chronic graft-versus-host disease. Int J Hematol 2018;108:298-305.

【2】学会発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

本研究に関連する演題はなし

G. 知的財産権の出願・登録状況(予定も含む)

【1】特許取得

なし

【2】実用新案登録

なし

【3】その他

なし

